

カリキュラムマップ<リハビリテーション学科視機能療法専攻> 2020年度以降入学生

建学の精神 「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

建学の精神に基づく教育目的 全学の目的…教育基本法の精神に則り、学校教育法に基づき、「誠意と親切と広い心」を理念に、豊かな一般教養の上に実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成する。
リハビリテーション学科視機能療法専攻…深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ視能訓練士を養成する。
①科学的根拠に裏づけられた視機能療法領域の専門知識・技術及び実践力を有する視能訓練士。
②対象者や医療・保健・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を築くために必要なコミュニケーション能力と態度を有する視能訓練士。
③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する視能訓練士。

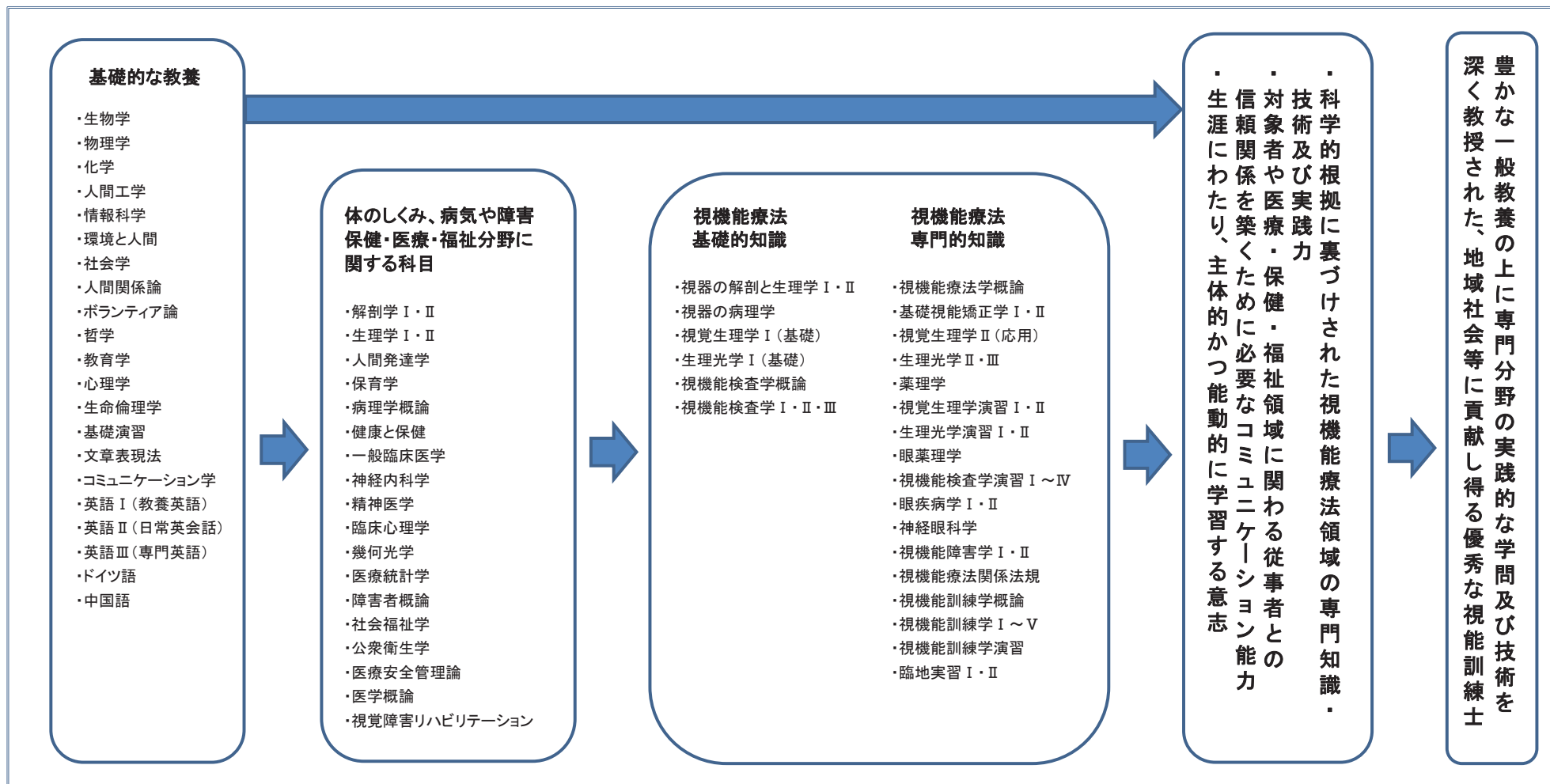
※ディプロマ・ポリシーの番号は、P4の該当番号

教育目的に基づく カリキュラム・ポリシー		項目	1年次		2年次		3年次		学習成果	ディプロマ・ポリシー	
全学方針	学科方針		前期	後期	前期	後期	前期	後期		全学方針	視機能療法専攻
社会生活に求められる教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。	地域社会に貢献するために視能訓練士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。	人間と科学	生物学 物理学 化学 人間工学	情報科学 環境と人間					視能訓練士として全人的医療を実践し、社会に貢献するために必要な人間性と教養、責任感と倫理観、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得	(1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観など、医療人として求められる教養を身につける。	(1) 視能訓練士として求められる社会的責任感、良好な人間関係を築くコミュニケーション能力、倫理観などの教養を身につけている。
		人間と社会	社会学 人間関係論 ホスピティアル論	哲学 教育学 心理学				生命倫理学			
		コミュニケーション	基礎演習 文章表現法	コミュニケーション学							
		外国語	英語Ⅰ(教養英語)	英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語							
		人体の構造	解剖学Ⅰ (骨・筋肉・循環・内分泌・消化器系等)		解剖学Ⅱ(神経系)						
専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体・疾病などの専門基礎を学び、それぞれの学科・専攻課程ごとに、次のとおり専門知識・技術及び実践力を修得する科目を配置する。	視機能療法学の基礎である人間科学を修得させる科目として、人体の構造と機能及び心身の発達、疾病の成り立ち及び回復過程の促進、視覚機能の基礎と検査機器及び保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念に関する専門基礎科目を配置する。 視機能療法学の確かな専門知識・技術を修得させる科目として、基礎的視機能療法学の科目を配置する。 視機能療法学の確かな専門知識・技術を臨床現場において適切に実践し得る能力を身につけるために、視機能療法学領域の各系統における発展的科目と分野横断的科目を配置する。 対象者に応じた視機能療法の実践及びチーム医療の在り方を了知させるために、臨地実習を配置する。 視機能療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、医療情報と実験研究に関する科目を配置する。	人体の機能	生理学Ⅰ(動物的機能)	生理学Ⅱ(植物的機能)					視機能療法学の土台となる人間科学領域の知識と技術の修得 視機能療法学の各分野における基礎的・理論的な知識と技術の修得 (2) 学習を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を修得し、地域医療福祉等に貢献できる力を身につける。 (3) 学科・専攻課程の教育目的に基づく学習を通して、人間、保健医療福祉問題等を科学的、論理的に思考し、柔軟な発想による課題発見、解決のための知識、技術等を身につける。 チーム医療における視能訓練士の役割の理解と実践力の修得 視機能療法に関わる課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得	(2) 身体構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた視機能療法を実践するために必要な専門知識並びに技術を身につけている。 (3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。 (4) 地域の保健・医療システムにおける視能訓練士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。 (5) 視機能療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけるため、生涯にわたり探求心をもち続け、学術研究活動を進め、主体的・能動的に研鑽できる。	
		心身の発達	人間発達学 保育学								
		健康と保健	病理学概論	一般臨床医学	幾何光学						
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	医療統計学	神経内科学 精神医学 臨床心理学							
		視器の解剖と生理学Ⅰ(眼球・眼底付属器他)	視機能検査Ⅰ(眼科一般検査)	視器の病理学							
		視器の解剖と生理学Ⅱ(視路・視運動系他)	視機能検査Ⅱ(眼科検査)								
		視覚生理学Ⅰ(基礎)	視機能検査Ⅲ(両眼視機能検査)								
		生理光学Ⅰ(基礎)									
		視機能検査学概論									
		障害者概論	社会福祉学 医療安全管理論 医学概論	公衆衛生学 視覚障害リハビリテーション							
		基礎視能矯正学	視機能療法学概論 視覚生理学Ⅱ(応用) 生理光学Ⅱ(眼球光学)	基礎視能矯正学Ⅰ(眼球運動他) 基礎視能矯正学Ⅱ(嚙位、両眼視)	薬理学 生理光学Ⅲ(屈折・調節)		基礎視能矯正学特論Ⅰ(解剖と生理、視覚生理) 基礎視能矯正学特論Ⅱ(生理光学)	視機能療法学の各分野における基礎的・理論的な知識と技術の修得			
		視能検査学	生理光学演習Ⅰ(屈折検査)	視覚生理学演習Ⅰ(視野検査他) 視能検査学演習Ⅰ(眼科一般検査) 視能検査学演習Ⅱ(両眼視機能検査)	眼薬理学 視覚生理学演習Ⅱ(電気生理) 視能検査学演習Ⅲ(眼科検査) 画像診断学	生理光学演習Ⅱ(屈折矯正) 視能検査学演習Ⅳ(眼運動系検査)		医療情報学			
		視能障害学	視能障害学Ⅰ(神経疾患、前眼部疾患他) 視能障害学Ⅱ(網膜病変疾患、視路疾患他)	眼疾病学Ⅰ(眼球、眼球付属器他) 神経眼科学	眼疾病学Ⅱ(遠近性眼疾患、小児眼疾患他)		視機能障害学特論				
		視能訓練学	視能能訓練学概論 視能能訓練学Ⅰ(視能能訓練学、基礎)	視能能療法関係法規 視能能訓練学Ⅱ(視能能訓練学、斜視) 視能能訓練学Ⅲ(視能能訓練学、弱視)	視能能訓練学特論Ⅰ(基礎) 視能能訓練学Ⅳ(視能能訓練学、ロービジョン)		視能能訓練学Ⅴ(視能能訓練学、総括)				
臨地実習				臨地実習Ⅰ		臨地実習Ⅱ					

科目関連図

各科目がどのように関連しているかを理解して学習をすすめる。

<リハビリテーション学科視機能療法専攻>



到達目標評価項目(学習成果)および評価基準

＜リハビリテーション学科視機能療法専攻＞

評価項目 学習成果	評価基準			適用科目	学校としての学習成果の評価
	3 (非常に優れている)	2 (優れている)	1 (基準に達している)		
視能訓練士として全人的医療を 実践し、社会に貢献するために必 要な人間性と教養、責任感と倫 理観、対象者と信頼関係を構築 できるコミュニケーション能力の 修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	生物学 物理学 化学 情報科学 人間工学 環境と人間 社会学 人間関係論 ボランティア論 哲学 教育学 心理学 生命倫理学 基礎演習 文章表現法 コミュニケーション学 英語Ⅰ(教養英語) 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	当該分野の学生のGPA平均値 が左記1～3のいずれに該当 するかにより評価。
視機能療法学の土台となる人間 科学領域の知識と技術の修得 視機能療法学の各分野における 基礎的・理論的な知識と技術の 修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	解剖学Ⅰ(骨・筋肉・循環・内分泌・消化器等) 解剖学Ⅱ(神経系) 生理学Ⅰ(動物の機能) 生理学Ⅱ(植物的機能) 人間発達学 保育学 病理学概論 健康と保健 幾何光学 医療統計学 一般臨床医学 神経内科学 精神医学 臨床心理学 視器の解剖と生理学Ⅰ(眼球・眼球付属器他) 視器の解剖と生理学Ⅱ(視路・眼運動系他) 視器の病理学 視覚生理学Ⅰ(基礎) 生理光学Ⅰ(基礎) 視機能検査学概論 視機能検査学Ⅰ(眼科一般検査) 視機能検査学Ⅱ(眼位検査) 視機能検査学Ⅲ(両眼視機能検査) 公衆衛生学 社会福祉学 医療安全管理論 医学概論 障害者概論 視覚障害リハビリテーション	当該分野の学生のGPA平均値 が左記1～3のいずれに該当 するかにより評価。
視機能療法学の各分野における 基礎的・理論的な知識と技術の 修得 視機能療法学の各分野における 発展的な知識と技術、実践力の 修得 チーム医療における視能訓練士 の役割の理解と実践力の修得 視機能療法に関わる課題解決の ための論理的な思考力と柔軟な 発想力及び向上心と探求心を持 ち、知識・技術の修得や学術研究 活動 を推進することができる能力の修 得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	視機能療法学概論 基礎視能矯正学Ⅰ(眼球運動、他) 基礎視能矯正学Ⅱ(眼位、両眼視) 視覚生理学Ⅱ(応用) 生理光学Ⅱ(眼球光学) 生理光学Ⅲ(屈折・調節) 薬理学 基礎視機能矯正学特論Ⅰ(解剖と生理、視覚生理) 基礎視機能矯正学特論Ⅱ(生理光学) 視機能療法学実験研究 医療情報学 視覚生理学演習Ⅰ(視野検査他) 視覚生理学演習Ⅱ(電気生理) 生理光学演習Ⅰ(屈折検査) 生理光学演習Ⅱ(屈折矯正) 眼薬理学 視機能検査学演習Ⅰ(眼科一般検査) 視機能検査学演習Ⅱ(両眼視機能検査) 視機能検査学演習Ⅲ(眼位検査) 視機能検査学演習Ⅳ(眼運動系検査) 画像診断学 眼疾病学Ⅰ(眼球、眼球付属器他) 眼疾病学Ⅱ((遺伝性眼疾患、小児眼疾患他) 神経眼科学 視機能障害学Ⅰ(神経疾患、前眼部疾患他) 視機能障害学Ⅱ(網脈絡膜疾患、視路疾患他) 視機能障害学特論 視機能療法関係法規 視機能訓練学概論 視機能訓練学Ⅰ(視機能訓練学、基礎) 視機能訓練学Ⅱ(視機能訓練学、斜視) 視機能訓練学Ⅲ(視機能訓練学、弱視) 視機能訓練学Ⅳ(視機能訓練学、ロービジョン) 視機能訓練学Ⅴ(視機能訓練学、総括) 視機能訓練学演習 視機能訓練学特論Ⅰ(基礎) 視機能訓練学特論Ⅱ(応用) 臨地実習Ⅰ 臨地実習Ⅱ	当該分野の学生のGPA平均値 が左記1～3のいずれに該当 するかにより評価。